

ビジョン検討にあたっての主な論点について議論した結果の整理

ビジョン検討にあたっての主な論点 1.、2. の議論で出た意見について、意見を各項に振り分けなおし、共通するテーマやビジョンの骨格・構成に関する事項ごとに整理した（再掲あり）。

※黒字：平成 29 年度第 1 回検討会での意見

※青字：平成 27 年度業務での有識者及び島内関係者へのヒアリングでの意見

※緑字：柴崎委員からいただいたコメント

1. (1) 伝統的な自然観・人と自然との関わり に関する意見

<<山の神、岳参り>>

(岳参り)

- 昔は山頂は神聖な場所だった。神聖な場所であるため、選ばれた人だけが（手足を洗い、裸足で下の川から）山頂に行った。【大山】
- 沖ノ島のように見ることができない場所があってもいい。それも魅力となる場合もある。【大山】
- 50 年後の未来に向かって、現在何をすべきかを明確にするために未来像を作るべき。極端な例として、50 年後には山頂部は立入禁止にする。それまでの間、人数制限や履き物の規制をかけながら山のあり方を作っていくものか。【大山】
- 原集落の岳参りでも、早朝海辺で体を清め、水を汲んで山頂まで上がる。（山頂は？）母なる聖地と聞かされた。しかし、山を利用して生計を立てている林業関係者はたくさんいた。【岩川】

(山の神)

- 我々の子どもの頃は、むやみに山に入ってはいけないとおしかりを受けた。屋久島では山の神が一番偉いということが言われていることに由来。【岩川】

(その他)

- 自分の住む地域の森林を大切にすることが醸成されていることは、他地域にはない特徴
- 歴史的経緯を踏まえ現在の場所の成り立ちを考えると、岳参りでトコロガンが願掛け・願解きを行ってきた場所は「聖地」として守られるべきであり、特に奥岳の峰々の「聖地」性を壊してはならない。安易に人数を増やすような施設整備などは極力控えることが重要。また、原生的かつ「聖なる空間」を体験できるよう配慮が必要【柴崎】
- 日本各地で山岳信仰が廃れていく中、岳参りという風習が残ってきた事実は非常に貴重。これを「屋久島の誇るべきモノサシ」として活かすべき【柴崎】

<<節度、感謝・遠慮の心>>

- 山の神を信仰することは、山を使わない（入らない）ことではない。山の神を大切にし、山を大切に思いながら使わせていただく（入らせていただく）という考え方である。【中川】
- 山から恵みをいただく場合、感謝の気持ち、節度を持って使わせていただくという気持ちが重要である。【中川】
- 利用することと信仰することは相反するものではない。具体的にどのようにしてバランスをとっていくかを議論すべき【中川】
- 感謝の気持ちを持つことで素晴らしいビジョンができてくるのではないか。山に入る人には、山に感謝し遠慮の心をもって入っていただきたい。【岩川】

<<畏れ>>

- 単に楽しみにくるだけでなく、山に対して畏れをいだくという部分もあってよい。
- 屋久島の山は近代技術をもって解決できるほど甘い環境ではない。こうした場所では「心（畏敬）をもって取り組むような対応が重要。【柴崎】

<<利用するエリアとしないエリア>>

- 山の神を信仰することは、山を使わない（入らない）ことではない。山の神を大切にし、山を大切に思いながら使わせていただく（入らせていただく）という考え方である。【中川】
- 沖ノ島では世界遺産登録をきっかけに入島禁止の検討をしているが、屋久島でもそのような場所があってもいいのではないか。人を受け入れる場所とそうでない場所を明確に線引きし、皆で同じ認識を持つことが重要。【佐藤】

1. (2) 自然環境を損なわない範囲、方法での利用 に関する意見

<<利用するエリアとしないエリア>>

- 沖ノ島のように見ることができない場所があってもいい。それも魅力となる場合もある。【大山】
- 50年後の未来に向かって、現在何をすべきかを明確にするために未来像を作るべき。極端な例として、50年後には山頂部は立入禁止にする。それまでの間、人数制限や履き物の規制をかけながら山のあり方を作っていくものか。【大山】
- 山頂部への立入禁止は厳しいが、闇雲に入るのはよくないことは同感する。【古賀】
- ネット上で情報が流布し、行ってしまう/行けてしまう神聖な岳参りの道について、利用するのか、制限するのか、中間をとるのかの方向性について明確になればよい。【古賀】

- 沖ノ島では世界遺産登録をきっかけに入島禁止の検討をしているが、屋久島でもそのような場所があってもいいのではないかと。人を受け入れる場所とそうでない場所を明確に線引きし、皆で同じ認識を持つことが重要。【佐藤】
- 整備する登山道はきちんと整備し、危険な場所などは使わないとしていくのであれば、使う所はどのような利用にしていくのかを検討すべき。【吉田】

<<屋久島が日本・世界に果たす役割・機能>>

(日本・世界の見本となる)

- 日本最初の世界自然遺産である屋久島だからこそ、見本となる自然と人との付き合い方ができるのではないかと。【大山】

(環境学習の道場)

- 環境文化村構想では、屋久島環境文化村を「環境学習の道場」という位置づけで考えていた。屋久島は環境学習の道場になりうる内容と条件を持っているので、このように考えれば、ある程度利用の仕方が見えてくるのではないかと。【大山】
- ガイドは、屋久島の魅力を伝え、環境学習の指導者にもなりうる。【大山】
- 屋久島の山には教育的な価値が多分にある。例えば、し尿担ぎは環境に配慮した行為であることとして捉える利用者は多いと考える。し尿担ぎのボランティアを募れば、島外から参加者が出てくると思われる。【柴崎】

1. (3) 屋久島山岳部の価値、魅力、らしさ に関する意見

<<ビジョンの作り方(役割)>>

(ビジョン検討の意義)

- このようなビジョン作りそのものが、屋久島の魅力とは何かという意識を作り上げるきっかけになればよい。【日下田】

(ビジョンの対象範囲)

- 来島者などから、屋久島で生まれ育った自分では感じられない島の魅力(風、水など)を知ることができた。里の部分も含めて議論するならば、「屋久島まるごとビジョン」としてもいいのでは。【岩川】

(一言フレーズの作成)

- 成果品としても、文章の冒頭には「この成果品は、どのような性格で、どのように役に立つのか」を一般の人にもわかりやすい表現で、冒頭に記しておくとう理解しやすくなる。【日下田】

(新たな「モノサシ」作り)

- 現代的な視点からさらに価値を上げる努力も必要。屋久島の新たな「モノサシ」を作って、それを世界に発信した方が長期的に価値がある。これからは屋久島の「モノサシ」を世界に発信する時代だと考える。【柴崎】

<<価値・魅力・らしさ>>

(2つの価値)

- 屋久島は、自然そのものの価値と、人と自然とが関わってきたことが評価されてしかるべき。それに見合った管理・運営の体制が整えられることが理想。【日下田】

(恵みと厳しさ)

- 「時に自然の大いなる恵みを感じ、時に自然の厳しさを知る」これが屋久島の価値ではないか。【柴崎】

(海・山・川一体、まるごと)

- らしさについて考える時、海・川を省くことはできない。海・山・川が一体となって屋久島の魅力がある。議論でもこの部分に留意して行う必要。【荒田】
- 屋久島の魅力を伝えるのは非常に難しく、屋久島を一体化して魅力を伝えることになる。【日下田】
- 屋久島の魅力は「まるごと」だと思う。言葉や目に見える形でらしさを作り上げるのは短い時間では難しい。【伊熊】
- 山岳部以外のいわゆる里の観光地もある

(奥岳の魅力)

- 奥岳の魅力は、屋久島の魅力（岩、水、緑、自然の厳しさ）など全てが詰まった場所であり、それが「聖地」を構成する要素にもなっている【柴崎】

(のんびりした時間)

- 現在の屋久島観光は、縄文杉登山など時間に追われるが、のんびりした時間を過ごせる島でもある。【吉田】

(他地域との比較)

- 奄美との比較では、屋久島は観察対象に縄文杉のようなはっきりしたスーパースターがあり、植物の魅力が動物より大きい。【長田】
- 標高差が大きく、雨量が多く、これらが植生の垂直分布にも影響している。【吉田】

- 他の山と比較すると「瑞々しいみどりみどりした山」であり、その緑は淡い黄色（落葉樹の新緑）から深い緑（常緑樹）までいろいろあることが特徴【柴崎】
- 里のすぐ近くに一級の溪谷や沢があちこちにある。いたるところで沢水が流れることが特徴【柴崎】

（原始性）

- ほぼ手つかずであることから原始性、原生性、神秘性を感じるころ
- 切り株があるところを「原始」とするには難しいが、人の手が入った森でも「原生」を感じることはできる。

（景観）

- 人工物のない解放感のある展望（注：宮之浦岳など山頂部から展望した場合、登山道以外に人工物はほとんど見えない）
- 特徴的な地形がもたらす景観
- 岩の荘厳さにも価値がある。花崗岩が天からまかれたような風景は、屋久島の幻想的な空間の重要な構成要素【柴崎】

（自然観・人と森の関わり）

- 自分の住む地域の森林を大切にすることが醸成されていることは、他地域にはない特徴
- 森と共に生活があったこと

（水環境）

- 他地域のように山岳部に生息する動物からの影響が少ないため、登山道のどこでも水が飲める。屋久島は「水」のイメージ
- 屋久島憲章でも述べられているように「どこでも、いつでも、おいしい水が飲めること」【柴崎】
- 里のすぐ近くに一級の溪谷や沢があちこちにある。水を通じた美しさ（時に怖さ）はもっと伝えられてよい。【柴崎】

<<屋久島の魅力の伝え方>>

（縄文杉登山）

- 良くも悪くも、縄文杉登山は屋久島に行きたいという人の入口となっている。縄文杉登山をきっかけに、より深い屋久島の魅力を伝えることにつながる案内ができるのではないか。【古賀】

(情報発信)

- 屋久島には色々なもの（魅力）があるが、発信が下手なのかもしれない。行政が主導で情報発信の基礎を構築し、効果的に発信していく役目はガイドにあると考える。【伊熊】
- 縄文杉と白谷雲水峡の魅力が突出している。その他の魅力を伝えるのは大変。今後はインバウンドを含めた中でのビジョン等作成となろうが、屋久島は環境としてはとてもいいものがたくさんあり、ストーリー性を全面に出していく必要。【後藤】
- 屋久島憲章では水を取りあげている。水の豊かさでストーリーが考えられるのではないか。【大山】
- 現代的な視点からさらに価値を上げる努力も必要。屋久島の新たな「モノサシ」を作って、それを世界に発信した方が長期的に価値が上がる。これからは屋久島の「モノサシ」を世界に発信する時代だと考える。【柴崎】

<<山岳部や登山以外の魅力>>

(山岳部以外の魅力向上)

- 世界遺産登録エリアは山岳部にあるが、今後は、団塊世代以降の体力低下などで山頂まで行かない利用も出てくることが考えられる。里巡りツアーなどで屋久島の魅力を高めていく必要。【吉田】

(多様な魅力の発信)

- また、縄文杉登山者があまりじっくり見ていない、過去の林業など人と森との関わりなども魅力になっていくと思われ、自然だけでなく多様な魅力を伝えていくべき。【吉田】

2. 屋久島山岳部の保護と利用の「目指す姿」/「あるべき姿」に関する意見

<<ビジョンの作り方（構成）>>

(未来像を描く)

- 50年後の未来に向かって、現在何をすべきかを明確にするために未来像を作るべき。【大山】

(一言フレーズの作成)

- 成果品としても、文章の冒頭には「この成果品は、どのような性格で、どのように役に立つのか」を一般の人にもわかりやすい表現で、冒頭に記しておくとう理解しやすくなる。【日下田】

<<目標像の設定>>

■50年後の未来に向かって、現在何をすべきかを明確にするために未来像を作るべき。【大山】

■あるべき姿を考える時、どの時点の姿を屋久島のあるべき姿とするか考える必要がある。

【古賀】

■いつの時代に戻るか考えることは非常に難しい。これから将来50年先がどのような時代になっていくのかを考えながら決めるべき。【吉田】

<<次世代への継承>>

■あるべき姿として、これから先に子々孫々に伝えていく形を一つのあり方にしていくという視点も必要。【内田】

<<屋久島が日本・世界に果たす役割・機能>>

(日本・世界の見本となる)

■日本最初の世界自然遺産である屋久島だからこそ、見本となる自然と人との付き合い方ができるのではないか。【大山】

■屋久島の山は近代技術をもって解決できるほど甘い環境ではない。こうした場所では「心(畏敬)をもって取り組むような対応が重要。このような取り組みを世界に発信した方が、長期的には価値が上がる。【柴崎】

(環境学習の道場)

■環境文化村構想では、屋久島環境文化村を「環境学習の道場」という位置づけで考えていた。屋久島は環境学習の道場になりうる内容と条件を持っているので、このように考えれば、ある程度利用の仕方が見えてくるのではないか。【大山】

■ガイドは、屋久島の魅力を伝え、環境学習の指導者にもなりうる。【大山】

■環境学習を行う場であるべき

■屋久島の山には教育的な価値が多分にある。例えば、し尿担ぎは環境に配慮した行為であることとして捉える利用者は多いと考える。し尿担ぎのボランティアを募れば、島外から参加者が出てくると思われる。【柴崎】

(自然・アウトドア志向への入口)

■素人がきて、その人たちが自然(アウトドア)を好きになって帰って行ってほしい。

<<屋久島の魅力・評価点と管理運営体制>>

■屋久島は、自然そのものの価値と、人と自然とが関わってきたことが評価されてしかるべき。それに見合った管理・運営の体制が整えられることが理想。【日下田】

■行政は屋久島ならではの風習や制度を「屋久島のモノサシ」として、国内や国外に普及

できるのであれば、特区を申請したり、新たな法律を制定するなどして（管理や運営を）動かしていく断固たる決意を持ってもらいたい。【柴崎】

<<山岳部や登山以外の魅力の向上・発信>>

（山岳部以外の魅力の向上）

- 世界遺産登録エリアは山岳部にあるが、今後は、団塊世代以降の体力低下などで山頂まで行かない利用も出てくることが考えられる。里巡りツアーなどで屋久島の魅力を高めていく必要。【吉田】

（多様な魅力の発信）

- また、縄文杉登山者があまりじっくり見ていない、過去の林業など人と森との関わりなども魅力になっていくと思われ、自然だけでなく多様な魅力を伝えていくべき。【吉田】
- 荒川登山口から大株歩道入口までの軌道は、し尿搬出やけが人緊急搬出に利用されてきた貴重な存在であり、林業が発展した産物。そうした林業的価値と景観的価値が併存してきた【柴崎】